

古川中学校 開校記念講話 (四月一日)

大崎市長古川中学校では、毎年開校記念日である四月一日、三年生を対象に吉野作造記念館による講話会を行っています。二〇一五年度は大川館長が「古中の先輩・吉野作造からのメッセージ 二〇一五」と題し、吉野のデモクラシー論の今日的な意味を紹介することで、社会に対して貢献することや志をもって将来を展望していくことの大切さを伝えました。

参加者数：二〇〇名

● 今回の開校記念講演で大川真さんが吉野作造について色々なことを聞かせてくれました。他の人を思いやる民主主義を広めたりしてとでもすごいと思いました。そして「人に仕えることの裡に己を生かす」という言葉が心に残っています。

(遊佐 魁斗さん)

● 吉野作造は、私たちから見て二五年後の、だいたい四〇歳くらいの時活躍していたと聞きました。私は、自分が四〇歳になったとき、何か誇りの持てるようなことをしたいと思えました。歴史に名を残すのは無理かもしれないけど、自分なりに頑張りたいと思いました。

(鷹鷲 唯菜さん)

● 今、あたりまえにできていることは、昔はそうはいか



なくて、昔の人の努力によって今の社会があるんだということを感じた。将来、社会に貢献し、人の役に立てるような大人になりたいと思った。自分の意見を言いつづけ、その夢・目標を達成することはすごいと思った。努力することが大切なことを改めて感じた。

(鈴木 琉佳さん)

古川中学校 キャリアセッション

古川中学校では、地域の様々な職業の人の話を聞くキャリア形成のための特別授業・キャリアセッションを行っています。大川館長は二〇一三年度からこの授業に協力しています。二〇一五年度は、二年生と一年生の皆さんを対象に「学者・研究者の仕事」をテーマとして講座を行いました。

大川館長は自身が本分である記念館館長や政治学者としての仕事のほか、石巻のまちづくり委員や奈良県の国際交流の委員など多方面で活動を行っていることを話しました。「ひとつの本業だけでなく、広く社会に目を向け、人の役に立つ色々な活動に参加してみよう。色々な顔を持つ人生の方が面白い」などと中学生に語りかけました。聴講した生徒の皆さんの感想をご紹介します。

Q:「学んだことをどう生かしていくか」を書きましよう。

● 私は将来、人の役に立つ仕事をしたいと思っています。だから、今回学んだ「人の役に立つ」ということは、能力関係なく、みんなができること、また、お金などは気にせず、人のためのことを考えるのを意識していきたいと思います。そして、たとえくじけそうになっても、悲しかったりしたら、最後のまとめの文章（生きていることはすべてムダな

ことはなく、何かの意味がきつとあります。それを感じられるように、それに気づけるように、心のアンテナをしっかりと張っていただくさい。）を思い出して、ポジティブに生きていこうと思います。

(菅原 里奈さん)

● 僕は大川さんの話を聞いて今やっている水泳に似ているなあと思いました。スポーツも学者のように、自分の好きなことを追求して何十年もかけて、練習しているからです。毎日、自分の好きなことを追求し、努力すれば、いずれ結果が出る

ると思いました。なので、僕は毎日水泳をがんばっていかないと結果は出ないと考えることができました。

(重高 遼汰くん)

○二年生：九月一〇日

参加者数：一一名



○一年生：二月二八日

参加者数：一〇名

